

長崎県ケアラー支援シンポジウム～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【1】開催概要

開催日時：2024年1月13日（土）13：30～16：30

場所：長崎県庁1階大会議室

※オンライン配信、アーカイブ配信（1か月間）も実施

開催目的：ケアラーが援助を受ける人とともに、安心して人生を送ることができる地域共生社会の実現を目指し開催

参加者数 会場参加 約60名

オンライン配信・アーカイブ配信の総視聴数 約240回

長崎県ケアラー支援シンポジウム
ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援

2023年4月に「長崎県ケアラー支援条例」を施行しました。ケアラーが援助を受ける人とともに、安心して人生を送ることができる地域共生社会の実現を目指し、県民向けのシンポジウムを開催します。

●日時/2024年1月13日(土) 13:30~16:30
●場所/長崎県庁1階大会議室(長崎市上町3番1号)
※オンライン配信、アーカイブ配信も行います。

基調講演1
「条例に託す思い」
長崎県議会議員 とうまなみ氏

基調講演2
「ケアラー支援の現状と課題、条例制定への期待」
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏

パネルディスカッション
「ケアラーが安心してできる共生社会の実現のために」
コーディネーター 辻 敏子氏

【コーディネーター】
長崎県議会議員 とうまなみ氏

【パネリスト】
長崎県議会議員 とうまなみ氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏

主催 長崎県

長崎県ケアラー支援シンポジウム
ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援

家族の介護を行うケアラーが、誰にも頼らずに生活したり、心が軽くなるようなことが課題となっています。少子高齢化や核家族化などから、家庭の人手は少なくなり、個人にかかる介護等の負担はますます大きくなりました。長崎県では、ケアラーを支援する条例を制定し、社会全体で支える仕組みの構築に取り組んでいます。

基調講演1
「条例に託す思い」
長崎県議会議員 とうまなみ氏

長崎県議会議員 とうまなみ氏
長崎県議会議員 とうまなみ氏
長崎県議会議員 とうまなみ氏
長崎県議会議員 とうまなみ氏
長崎県議会議員 とうまなみ氏

基調講演2
「ケアラー支援の現状と課題、条例制定への期待」
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏

一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子氏

パネルディスカッション
「ケアラーが安心してできる共生社会の実現のために」
コーディネーター 辻 敏子氏

コーディネーター 辻 敏子氏
コーディネーター 辻 敏子氏
コーディネーター 辻 敏子氏
コーディネーター 辻 敏子氏
コーディネーター 辻 敏子氏

パネリスト
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏
長崎県ケアラー支援センター 横田 悠介氏

会場 長崎県庁1階大会議室 (長崎市上町3番1号)
申し込み方法 会場、またはオンラインで参加できます。スマートフォンからQRコード、またはURLを指定し、必要事項を入力してお申し込みください。 <https://x.gd/RmIup>

お問い合わせ 長崎県長寿社会課 ☎95-895-2434

【2】基調講演

基調講演1 「条例に託す思い」 長崎県議会議員 とうまなみ 氏

条例制定の中心となって動かれたとう議員からは、ご自身がケアラーとして障害児の子育てと仕事の両立の大変さを体験した経験をもとに、条例に託す思いをお話し頂きました。

<参加者の声> とう議員の短い時間での想いに感銘しました。

基調講演2 「ケアラー支援の現状と課題、条例制定への期待」
一般社団法人 日本ケアラー連盟代表理事 堀越 栄子 氏

堀越先生からは、長崎県が実施したケアラー実態調査や全国でのヤングケアラー調査等に触れながら、主に以下の4点についてお話いただきました。

- ① ケアラー（家族等無償の介護者）・ヤングケアラーはどのような状況にいる人（子ども）なのか、その現状や抱える問題。何を求めているのか。
- ② ケアをすることが問題ではなく、過剰な責任や負担を引き受けざるを得ず、「ケアラーが個人として尊重され、より良い生活や人生を送る選択肢がない・少ないこと」が問題。
- ③ 特にヤングケアラーには、周囲から気づかれにくいことや話を打ち明けにくい理由や背景があるため、子どもの権利を守るといった視点、子どもの健やかな育ちの視点が大事。
- ④ 学校や職場、行政、社会が、ケアラー・ヤングケアラーを理解し、支援するための課題を当事者と共に検討し、支援ができる環境づくり（法律・条例、施策、共に生きる地域）が求められること。

<参加者の声>

・ケアラーが人間らしい生活を送るために何でも相談しやすい環境づくりが重要と感じた。ケアラーをいかに孤立させないか、させてはいけない。

長崎県ケアラー支援シンポジウム～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【3】パネルディスカッション

テーマ「ケアラーが安心できる共生社会の実現のために」

県内でケアラー支援に携わる4人のパネリストに、それぞれのお立場での取組の現状や課題などをお話いただきました。ケアラーを取り巻く環境は、高齢・障害・生活困窮・教育など多岐にわたり、複雑化・複合化しやすいこと、また、ケアラーが孤立しないよう、行政、事業者、県民等が相互に連携をしながら、それぞれの立場でできる役割を果たすことが重要であることを改めて認識しました。

登壇者

- コーディネーター
・長崎県地域包括・在宅介護支援センター協議会 辻 敏子 氏
- パネリスト
 - 長崎市北多機関型地域包括支援センター 平田 悠介 氏
「地域共生社会の実現に向けた取り組み」
 - 一般社団法人長崎県介護支援専門員協会 迫 久美子 氏
「働く人の安心～お世話と仕事の両立～」
 - NPO法人schoot「まつなぎや」 山田 弘美 氏
「子どもの居場所を拠点にしたヤングケアラー支援」
 - 高次脳機能に障害をもつ子どもと家族の会よりよりホームズ 飯田 彰吾 氏
「民間支援団体や当事者団体の活動とそれを支える
県民や地域の理解・専門職や行政の後方支援の重要性」

<参加者の声>

- ・ケアラー支援に係る団体、機関の実態も知ることが出来ました。特にワークサポートケアマネジャーの方の存在も知らなかったです。公的機関だけでなく自主団体、法人など若い方がどんどん関わっておられることが新鮮でした。
- ・パネリストのおたがい様と言い合える社会、大切だと思いました。パネリストの人の実践から出た早期発見、介護のポイントすごく勉強になりました。

【4】参加者の声（全体）>

ケアラー支援を進めるために必要なこと

- まだ知らない人も多くいるため、まずは”周知”が大切だと感じました。
- 支援を必要とする人にだれかが気づかなければ始まらない。そのためには、専門職はもちろんだが県民の多くに条例について知ってもらうことが必要だと思う。例えば公民館活動や町内の回覧板、民生委員・児童委員への講習会などで啓発を行う。
- 地域や職場が介護は誰にでも起こり得る事だとの意識を当たり前を持つこと、個人個人の意識の変化が必要。
- 企業の柔軟な働き方の仕組みをつくる。行政が先頭に立って推進する。医療、介護、教育（子どもがしっかり学習や生活ができる）の支援者が無理をしないでサポートをできる仕組みを作ることが、家庭内でもチーム支援ができるように専門家がアドバイスしてほしいです。
- 家庭内の問題・課題という意識・認識を社会全体で変えていくこと。

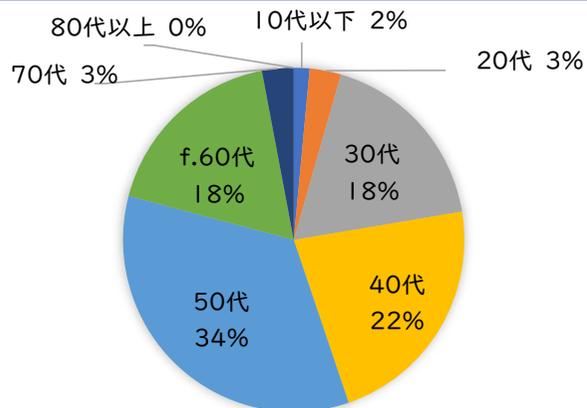
全体を通しての感想やご意見

- ケアラー自身が社会から遠のいていく一方なのが問題。ケアラーがケアラーではない時を作るよう支援したいと思う。
- 地域で支えることは理解できてもどうしても出来ないことや法律の壁にさえぎられことが多く、また近年の人々の考え方が個々になりすぎ手を携えて助け合う心のなさが大きな問題に感じます。
- とても分かりやすいシンポジウムでした。長崎全体、どこに住んでいても安心と思えるように自分もつながりを大切にして頑張っていきたいと思えます。
- 「お互い様」の気持ちで互いに興味・関心を持って声を掛け合える長崎県を作っていくために「ケアラー支援は」非常に大切なことだと参加して感じました。ありがとうございました。
- facebookなど、広告宣伝で広げたのは素直にすごいと思いました。

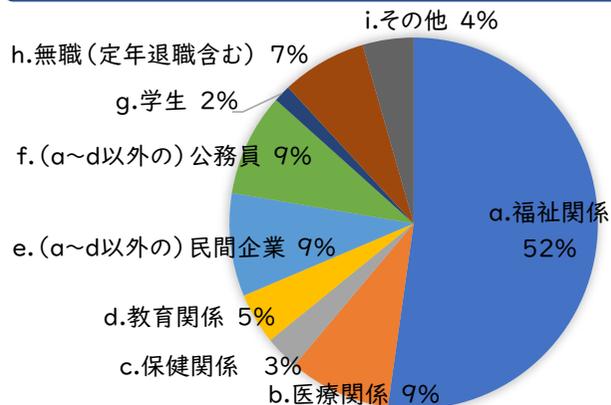
長崎県ケアラー支援シンポジウム～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【5】参加状況（アンケート回答より）

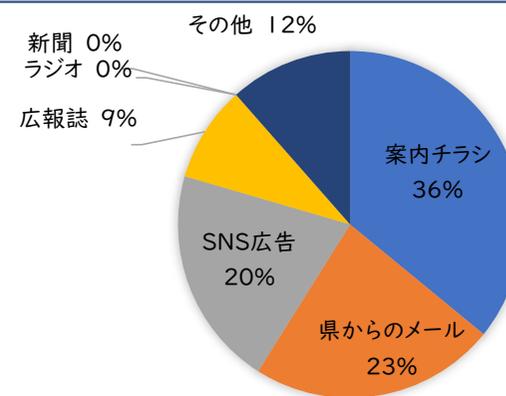
来場者、視聴者の年代



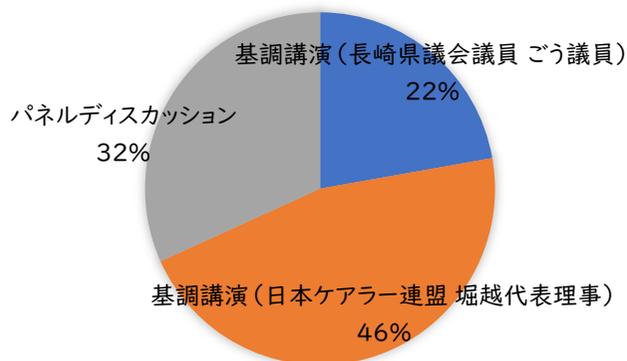
来場者、視聴者の職種



シンポジウムを知ったきっかけ



1番印象に残ったもの



ケアラー支援への理解

